毎月一回発行

Oita Prefectural Hospital
大分県立病院 みなさんと診療科をつなぐ架け橋

2024年　4月　第189号

県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511　大分市豊饒二丁目8番1号　TEL097-546-7111（代表）内線7712:県病ニュース係

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

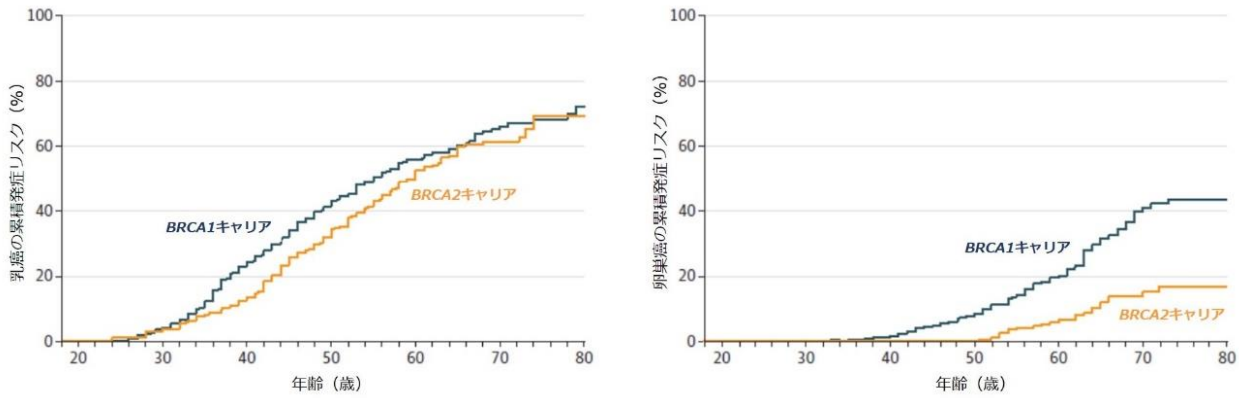
婦人科　遺伝性乳がん卵巣がんとリスク低減手術

遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）はBRCA遺伝子の病的変異のため乳がんや卵巣がん、前立腺がん、膵がんなどを発症しやすい症候群で、50％の確率で親から子に遺伝します（常染色体優性遺伝）。BRCA遺伝子はDNAの傷を修復して、細胞ががん化することを抑える働きがあります。BRCA1またはBRCA2に病的変異がある場合の年齢にともなう乳がん、卵巣がんの発症率は図のようになります。日本人の約500人に1人、乳がんの5～10％、卵巣がんの10～15％がHBOCと言われています。

近年、HBOCに対するリスク低減乳房切除術（RRM）とリスク低減卵管卵巣摘出術（RRSO）が保険診療または自費診療で行われるようになりました。リスク低減手術とはがんの発症前に臓器を摘出してしまう予防的手術のことです。RRMは乳がんの発症を93％低減しますが、RRSOは卵巣がんの発症を79％低減するだけでなく、乳がんの発症も51％低減します。これは乳がんにホルモン感受性があるからです。さらにRRSOは卵巣がん・乳がんなどによる全死亡リスクを60％低減するため、HBOCの患者さんにとって大きな利益が得られる手術と言えます。RRSOは腹腔鏡下に行うことができ、身体への負担も少ない手術ですが、閉経前に行う場合は更年期障害による体調の変化に留意する必要があります。

当院では本年度からRRMとRRSOを行う体制を整えています。もし、ご自身が乳がんや卵巣がん、前立腺がん、膵がんを発症した、または発症したご家族・ご親族がいてHBOCかどうかが気になる場合はそれぞれの担当医にご相談ください。適応と必要性を検討のうえ、遺伝カウンセリングを受けていただいた後に、診断のための遺伝学的検査を実施いたします。

（婦人科　部長　大神 達寛）



図：BRCA1およびBRCA2の病的変異における乳がんと卵巣がんの累積発症リスク

※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

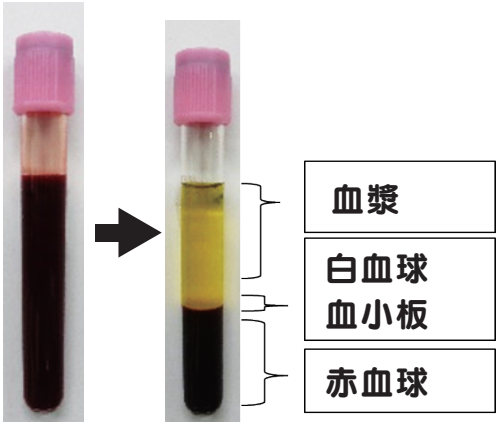
（裏面をご覧ください）

毎月一回発行

2024年　4 月　第 189号

輸血部

輸血用血液製剤について



血液は放置すると写真のように3つの層に分かれ上層淡黄色、下層赤色、上層と下層の中間に薄い白濁色の中層が見られます。上層は血漿（けっしょう）といわれ9割は水分であり、タンパク質、ブドウ糖、脂質等が含まれ、中層は白血球、血小板の血球成分、下層は赤血球の血球成分から構成されます。

献血者の血液から作られる輸血用血液製剤には主に赤血球から作られる赤血球製剤、血小板から作られる血小板製剤、血漿から作られる新鮮凍結血漿があります。赤血球製剤は出血等で、酸素を運ぶ役割の赤血球が足りない場合に使用します。赤血球の色が赤色であることから赤血球製剤は赤色を示しており、輸血というと本製剤を想像する方が多いのではないでしょうか。しかし、血小板、新鮮凍結血漿は赤色ではなく血漿成分の色である淡黄色になっています。

血小板製剤は、血管が破れた際にその部分をふさぐ働きをする血小板を補充するために使用します。

新鮮凍結血漿には血液を固める成分が含まれ、血小板とともに破れた血管を補強して出血を止める働きをします。この血液を固める成分が出血等で消費されて少なくなった場合に新鮮凍結血漿を使用します。

（輸血部　部長　宮﨑 泰彦）

赤血球製剤

血小板製剤

新鮮凍結血漿

看護師ほか医療スタッフの臨時職員を募集しています。詳しくはこちら

※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

（裏面をご覧ください）